

B 149 東北の刺しものの研究

1 手覆い(手甲 手袋 腕貫)の構成について
山形県立米沢女短大 徳永幾久

目的 東北の刺しものの中で 手 腕を覆う被物について 種類 分布 刺し技術 模様については まだ明らかにされていない。そこで 本報は 東北地方の裏日本 即ち 青森 秋田 山形地方の特色ある手覆いの種類 着装 構成について報告する。

方法 東北地方に残存する 刺しもの 並かに 手覆いに関する被物を 30年間にわたり 収集したものを比較調査した結果より考察

結果 収集物を形態別に分類すると [1] 指と指間を覆うもの [2] 手の甲を覆うもの [3] 手甲 掌を覆い 指先の出るもの ①袋形 ②甲掌2枚形 ③巻布形 [4] 腕貫 ①手甲付腕貫 ②手袋付腕貫 [5] 長袖に手甲付 その他応用形である。東北の手覆いの形態

着装 構成は誠に多様であるが これは農山漁業の手仕事が多いこと、それに対して布地不足のため 必要最少限の布地で工面したものと考えられる。県別の特色のあるものをあげれば 作業内容にもよるか 青森県は 親指と人差指の二本を包むもの、指毎にループをくぐす手甲。秋田県は 手甲付腕貫、親指 人差指 その他と3袋の手袋 長袖と手甲の繞いたもの 山形県は [1]手甲、ノ枚形 筒形 巻形 [2]手袋 指先の出る角形 扇形など 形態 着装 構成上些味のあるものが多い。また袋形のもは アイヌの葬儀用手甲(ライクル、テクンベ)と相似形のものや 巻き手甲にも アイヌの女帯(ランタン)をまね 応用したと思われるものも存在し、アイヌとの文化変容も考えられる。以上何れも直線裁ちのものが多く 指 掌の機能に適し、驚く程 合理的かつ 機能的であり、手仕事に通じた女の緻密な工面、工夫の結果と思われるのである。